

【授業科目】 ボランティア論 Theories of Volunteering

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
松井 真理子	1年次後期	選択	1	15	講義			可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／社会を構成している3つのセクター（政府、企業、市民）のうち、市民セクターは原則的に非営利かつ非政府であるなど、他のセクターとは異なる特徴と重要性がある。市民セクターの代表的な存在であるNPOやボランティアを中心に、市民による自発的な社会課題への取組について、身近な地域においてどのような担い手がどんな活動を行っているのかを、地域の実践家を招いて具体的に紹介する。これらを通じて、市民セクターの存在意義を深く理解するとともに、市民が市民を支える社会づくりへの参画の一歩とする。</p> <p>進め方／オンデマンド形式で行う。</p> <p>フィードバック方法／毎回の授業では自由にメールで質問ができ、質問に対してフィードバックを行うとともに、内容に応じて全員に対して共有し、全体の理解を深めることとする。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 市民セクターのさまざまな団体の基本概念がわかる。 ② なぜ市民活動が重要なかがわかる。 ③ 今日のボランティアやNPOが抱える課題や新しい方向性が理解できる。 ④ 市民活動への関心が高まり、自ら社会貢献活動に参加する意欲を持つようになる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>第1～8回事前学習：テーマに関して、インターネット等で検索し読んでおく。(各90分) 事後学習：新聞に掲載されている関連記事や関連する図書などを読む。(各150分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。</p>							
授業計画	<p>第1講 ガイダンス・NPO・ボランティアとは何か 第2講 さまざまな市民活動・若者と市民活動 第3講 市民活動の機能（1）公共サービス提供 第4講 市民活動の機能（2）人と人をつなぐ（コミュニティ形成） 第5講 市民活動の機能（3）社会を変える（アドボカシー） 第6講 市民活動と資金 第7講 現代社会とボランティア 第8講 支え合うまちづくり</p>							<p>全て 松井</p>
評価方法 評価基準	<p>定期試験 100%</p>							
教科書	<p>毎回講義時に資料を配布します。</p>			<p>参考書等</p>	<p>なし</p>			
学生へのメッセージ	<p>ボランティアを体験してみたい場合は、紹介しますので申し出てください。</p>							